

ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 28-2

平成28年12月1日

農業総合センター有機農業推進室
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/nougyou-centre/index.htm>
TEL 0249581711 FAX 0249581730
Facebook「オーガニックランドふくしま」



水稲有機栽培「酒米」の産地見学会の開催

農業総合センター有機農業推進室

平成28年9月6日（火）に福島県酒造協同組合に加入している酒蔵（酒造メーカー）のみなさん、酒蔵のある市町村担当者、ハイテクプラザ会津若松技術支援センター担当者に参加いただき、県内産の酒米有機栽培ほ場の見学会を開催しました。

本県産日本酒は、全国新酒鑑評会において金賞受賞数4年連続日本一という高い評価を得ており、また、特定名称酒と呼ばれる「吟醸酒」や「純米酒」のなかには有機栽培の酒米を使用しているものもあります。しかし、県内産の有機栽培酒米の使用量はわずかです。

そこで、見学会では、県内産「有機酒米（酒造好適米・一般米）」の理解を深めていただけるよう、県水田畑作課の濱名主査から県内酒米の生産状況について説明をしていただいた後、石澤農園の石澤智雄氏と有限会社仁井田本家あぐりの吉田和生氏のそれぞれに酒米有機栽培ほ場の案内と栽培管理や生産状況について説明をしていただきました。



石澤氏の有機水稲ほ場の見学

参加者からは、次のような意見をいただきました。今回の見学会開催を踏まえて、今後とも県産酒米（特に有機栽培）の生産と需要の拡大につながる取り組みをしていきたいと考えています。

- ・酒米の有機栽培はまだまだ認知されていないと感じた。
- ・稲作についての知識が無かったので、現場の声を聞くことができて良かった。
- ・有機と普通栽培の違いが、まだいまいちわからない。（勉強会希望）
- ・有機栽培ほ場を詳しい説明を受けながら見学できて良かった。
- ・栽培方法の違いについて今までわからなかった。今回勉強になったが、もう少し情報をいただきたい。
- ・有機栽培の現状等を肌で感じる事ができた。
- ・完全無農薬で雑草の生えないほ場は、インパクトがあった。



(有) 仁井田本家あぐりの有機水稲ほ場での説明

いわき市内でボランティアによる木綿の収穫が行われました

相双農林事務所双葉農業普及所

11月3日、いわき市内のいわき夏井ふぁーむ 小林 勝弥・美知さんの木綿栽培ほ場において、ボランティア約50人による木綿の摘み取りが行われました。

いわき夏井ふぁーむの小林さんは、震災前より、そら豆、春菊、馬鈴薯などの有機栽培に取り組んでこられた有機栽培農家です。

震災では、ほ場一部が津波被害を受け生産休止を余儀なくされたことや、風評により販売先との取引停止などの様々な苦難に直面してこられました。2013年より、木綿の栽培を含め、有機栽培を本格的に再開しています。

いわき夏井ふぁーむでは、震災後、木綿をはじめ有機栽培を通じて、WWOOF【www.woof.jp】のホストとしても国内外の多くの方々と交流を続けてきております。



参加された皆さん

木綿ほ場は、いわき市の民間団体が推進する「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト（2012年度より開始。木綿の有機栽培、製品化事業モデルを構築し、農業再生、地域に活気と仕事の創出を目的として、浜通りを中心に展開）」の交流の場として、ほ場準備、播種、中間管理、収穫などの生産管理が、県内外からの多くのボランティアとともに行われています。

3日は、有機食材を扱う食品会社、衣類会社の社員の方々、学生さんなどボランティアがいわき夏井ふぁーむの木綿収穫作業を行いました。

弾ける木綿の実を初めてみる参加者が殆どで、収穫した木綿の実を手に、笑顔を浮かべながら「楽しい」「ふわふわして気持ちいい」「温かい」などの感想を聞かせてくれました。

参加者のみなさん、小林さんご夫妻お疲れ様でした。



棉の収穫作業

農業総合センターまつりで有機農産物を販売！

農業総合センター有機農業推進室 会津農林事務所農業振興普及部

第11回福島県農業総合センターまつりが、9月9日（金）、10日（土）の両日、郡山市の同センターで開催され、県内から2つの有機生産組織が出展しました。

二本松市から「オーガニックふくしま安達」、喜多方市から「喜多方ゆうきの和」、会津美里町から「会津自然塾」の3つの組織会員が出展しました。様々な新鮮野菜に加えて、トマトやニンジン、タマネギのソースやルバーブのジャム、ドライトマト、味噌など多くの農産加工品の販売を行いました。センターまつり当日は天気に恵まれたこともあり、多くの来場者が野菜や加工品を買い求めていました。



会場には、有機農業を紹介するパネルの展示や、出展したグループの紹介パンフレットや有機農産物に関するパンフレットを配布し、各グループの取り組みや有機農産物の安全性をPRしました。また、対面販売により交流が図られ、有機農産物や生産組織の取り組みを知っていただく良い機会となりました。



販売の様子

ファーマーズマーケット@UNUへの出店

農業総合センター有機農業推進室

7月30日（土）に、東京都渋谷区の国連大学前広場で開催されたファーマーズマーケット@UNUに、福島県内の有機農業者組織「オーガニックふくしま安達」と「会津自然塾」、「喜多方ゆうきの和」が出店し、有機農産物のPR・販売を行いました。



内堀知事が有機農産物をPR



オーガニックふくしま安達のブース

当日は、国際連合大学において福島県産農産物の魅力を首都圏の消費者に伝えるイベント「体感！フルーツ王国ふくしまプライド。IN東京」が開催され、大変多くの方に来場していただきました。

トマトやズッキーニなどの夏野菜の他、有機野菜を原料としたソースなどの加工品を販売し、来場者からは好評でした。また、内堀知事がブースに立ち寄られ、有機農家と話をしたり、販売している有機農産物や加工品を手に取りながら、有機農産物をPRしていただきました。



会津自然塾と喜多方ゆうきの和のブース

《お知らせ》

平成28年度第2回福島県有機農産物認定業務講習会が、平成29年1月31日（火）に農業総合センターにおいて開催されます。登録認定機関『福島県』から有機JAS認定の取得を希望する方は、この講習会を受講して下さい。受講するには事前申し込みが必要です。

申込書は、農業総合センターのホームページ

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/nougyou-centre/index.htm>

から入手して下さい。

また、ホームページを開けない方や問い合わせのある方は

福島県農業総合センター 指導・有機認証課 : 024-958-1708

まで連絡をお願いします。

有機農業に関する理解促進のための講座を実施！

農業総合センター有機農業推進室

福島県では、桜の聖母短期大学の協力を得て、平成27年度から有機農業に関する理解促進のための講座を開催しています。平成28年度も、有機農産物をより多くの方に知ってもらうため、桜の聖母短期大学食物栄養専攻の学生を対象に、有機農業に関する理解促進のための講座を実施しました。

10月13日（木）は、桜の聖母短期大学で講義を行い、有機農産物の定義や販売するためのルール、福島県内における取組について説明しました。また、(株)いちい福島西店の高橋拓人副店長から、流通の側から見た有機農産物の魅力や美味しさ、日本と世界での有機農産物販売の現状について説明していただき、併せてオーガニックふくしま安達の有機野菜（ナス、サヤインゲン、ピーマン）の試食を行いました。学生からは「有機という言葉しか知らなかったがどういうものか知れて良かった」「試食した野菜は、普段食べている野菜と違って苦みが無く、美味しかった」といった感想が聞かれました。



授業の様子



ほ場見学の様子

また、10月24日（土）は二本松市東和地区ではほ場見学を行いました。オーガニックふくしま安達の関元弘さんのほ場において、どのような考えに基づいて有機農業を行っているのか、どのような人達が有機農業を行っているのかを話していただきながら、レタスの収穫や小麦の種まきといった農作業体験を行いました。

その後、ふくしま農家の夢ワイン(株)のワイナリーに場所を移し、有機農産物を使った昼食を取りながらの意見交換会を行いました。自分達が収穫したレタスを使ったサラダやビーツのステーキなどを分担して作り、生産者の方々と懇談しました。

卒業後は栄養士等の職業に従事される方が多いとのことなので、今回の講座を通じて有機農産物のユーザーになってもらえることを期待しています。次年度以降は、県内各地で同様の企画を実施していきたいと考えています。



ビーツのステーキ作り



昼食の様子

会津の有機農産物を杜の都仙台市でPR

会津農林事務所農業振興普及部

10月26日（水）から11月6日（日）まで、宮城県仙台市で「Organic Week Sendai 2016」が開催され、本県から、会津自然塾（11月3日）と喜多方ゆうきの和（11月4日）の2生産組織が参加し、仙台アーケード内にある「イオン仙台店」の店頭で会津の有機農産物をPRしました。

この催しは、宮城県内の4つの市民団体が、年に一度、“オーガニックを盛り上げるキャンペーン期間”を設定し、その期間内に有機農業やオーガニックなライフスタイルに関連する様々な取組を呼び掛けたり、その取組の情報をホームページ上などで発信していくことを目的に、今年からスタートしたものです。

PRした場所は普段から人通りが多い場所であることに加え、歴史と伝統がある会津からの参加ということもあり、多くの買い物客が足を止め、販売物を興味深そうに手に取っては、店頭で立った会員に声をかけ、利用方法を質問するなど言葉を交わしながら次々と購入していきました。このようなPR活動の一つ一つをとおして、消費者の関心や理解が徐々に高まっていくものと期待されます。



当日の様子



《お知らせ》

有機農産物マーケティング研修会を開催します。

○日時：平成28年12月13日（火）13:00～15:30

○場所：福島県農業総合センター 大会議室

○講演

ア 「有機農産物の流通消費を踏まえた今後の有機農業振興のあり方について」
宮城大学食産業学部フードビジネス学科助教 谷口葉子 氏

イ 「東北地方における商材としての有機農産物について」
イオンリテール株式会社東北カンパニー 食品商品部農産マネージャー
柳谷真也 氏

問い合わせ先 024-958-1711

福島県農業総合センター有機農業推進室 穴澤